

# 備陽史探訪

NO.10

## 神石町の古跡探訪を終へて

武島種一

空は快晴、太陽の光のありがたさを感じた。四月三日の朝。8時すぎ福山駅を出発したマイクローバスの一行は10時すぎ神石町呉ヶ峠へ到着、小休止の後目的地神石町古川吉ヶ迫へ、先ず最初の計画を変更して天王山古墳を見学、直径四〇メートルの大円墳に登り頂上で神谷・田口正副会長より車問的説明を聞き、本月担当者が古川一帯の特徴と紀伊田辺の荘よりの落人で西城大富山城王宮氏と関係ある人の子孫が現住している等の話しをする。参加者の中に天王山という名林に特別のいわれがあるのではないかという疑問をもたれた方があるように見受けられた。ついで同じ吉ヶ迫地内の長者屋敷へ向い、バスを下りた所で荒堀清の古墳を見学し徒歩で長者屋敷へつくと、土地所有者の田辺さんが親切に来て下さったので説明をお願ひする。長者屋敷と側にある古墳を見学し、全員徒歩で田辺宅の横にある古墳を二箇所見学し直ちにバスに乗り本日の昼食場所神石町相渡土生曹洞宗高峯山竜雲寺へ向い5分ほど到着、お寺の本堂で皆衆しく食事をする。ただ桜の花のないのが寂しい中に残念であった。食後会長が挨拶をし更に住職吉津徹悟師にお願ひしてお寺の由来と法話を聞き、13時40分同寺を後にして時間の都合で見学予定の宮地谷神宮寺古墳見学を省略し呉ヶ峠へ出て県道25号線を左折し神石町高光下郷の小高い山

発行  
備陽史探訪の会

### 《特集》

- ◎ 四月・神石例会報告
- ◎ 五月・八親子古墳めぐりに向けて

の上にある宝篋印塔を見学、現場で正副会長と会員の宮宗さんより説明を聞く。皆なゆがたような顔をしていた。県道25号線より現場への道が不良と急な為事故が生じてはと不安があったが全員無事下山する。宝篋印塔の主だと言はれてはいる宮野五郎左衛門の居城高光馬場城跡を、不良道にも拘らずバスが動いてくれたので幸にして見学することができた。同様の本丸跡で正副会長の説明を聞き直ちに下山し県道25号線を折返し見学予定の八尾城は登山道に支障があるため中止して泉山城跡へ向い山麓の福永小学校を改造した恩定寺の横で下車し記念撮影をして登山する。本丸近くが急峻であったが全員元気で本丸跡に揃いその広さに驚く。田口副会長より説明を聞き歴史の面白さを感じながら出丸跡づたいに下山し恩定寺の庭で閉会式を行ない全員衆しく然も無事に終わったことを喜び合い乍ら再会を期待してバスへ時に16時20分。

### ※四月例会を振り返って見て

◎ 人員輸送を定期バスでなくマイクローバスを主体にしたことは結果に於て統一行動がとれて能率的であった。このことは神谷会長の決断によるが、今後は一層計画の段階で留意することが大切。◎ 見学地の多いのが良いが、少くして充分研究できるようなものかその時の状況を検討して計画する必要がある。◎ 多勢の参加者が古跡を訪ね歴史を語り往時に思いを馳せる等人間関係も深まり研究外の効果もあり会の目的にマッチしてそれなりの成果をあげられたと思う。(4月担当者)

# 覆面潜入ルポ 例会寸評

当節「新聞の文字が大きくなつた」というのが流行の様であるが、我が探訪誌は断固として時流に抗して今日号より「字を小さくすき固を狭くしを貫徹いたしましたのだ。お年寄り方には迷惑になるかもしれないが、これで従来と同じスペースで倍の分量がのせられ、十分にぎやかな誌面となるはずである。ものごとはなべてにぎやかでなくてはいい——とびゅう観覧から例会寸評などを始めこまました。一応「覆面」と銘うってあるけれども、多分とも当会のメンバーを知っている人なら誰が書いたかすぐ解ると——こびゅうとこころも非常にプロレス的であるんではなにかと当人非常に気を良くしています。若干の不作法さと辛辣さとして本質的には愛と感動のドラマとしてこの欄は探訪の会の存在する限り不滅であり、後の世まで高く語り継がれるであろうことは、ゆーまでもない。

武島さんと始めがお会いしたのは確か一月の平井さんの談話会の時だつたと思う。会が終了して参加者は皆んな帰つてしまつたのに武島さんは一人「わしは基本的にヒマなんだもんね」といつた感じで残つておられたので喫茶店におつれした。二日の談話会のあとでは「養老の道」で酒色のんだ。三月にもまたのんだ。そしてこの何か行事の終つたあとには酒色のむというの。ついに私らのもう一つの「例会」になつてしまつたのだ。この様に武島さんは我が会が「喫茶店おすまし集団」から「養老の道受けりやええじゃないか集団」に成してゆく過程にお

いて極めて重要な役割を荷つた人であることは良く解られたことと思ふ。

武島さんが逸話としては御当人からうかかつたのだが、若い頃から古墳や山城が好きでそれをもた二見で歩くだけでは飽き足らず、其の調査員か地元の人種や史跡調査に来ると呼ばれもしないのについて行つて見学する、迷惑顔されても邪魔にされても竟に解せずといつた風であつたらしい。この様に武島さんは努力と根性の人である。また他人を笑はせるとも、ときもつて自己の楽しみとする美風も兼ねてなえた人であつて、このことは神石例会が綿密な下調査と心尽くされた準備の上で成り立つていたことによつても知られよう。しかも此程力を入れた例会であるにも聞えず、私らの様にどうだとうだすといつたところなどは、いかにも心憎い所業であり「コンニョメ」なのであつた。

どうも今回は基本的にホメすきでしまつた様だ。これはきつと昼食の時出してもらつたビールと地酒のせいに違ひなく、「おごらぬ酒」に弱りという私の官僚的体質がモロに表われた一幕であつた。こんなことは福山市政を律してゆくことは不可能である。深く反省しよう。

## 原稿募集!

備陽史探訪の会では、会報を充実させるべく皆様原稿を期待してまいります。例会談話会の感想・注文、また身の回り之起つた興味深い出来事など、どしどしお寄せ下さい。まっ、こまます。

福山市川口町3377-1 会報責任者 種本実



